

秋田県・無居住化集落（廃村）における離村関連記念碑 Monuments on Past Leaving at Uninhabited Villages in Akita

○浅原昭生*

林直樹**

Akio Asahara

Naoki Hayashi

1. 目的・背景

わが国は人口減少時代に突入したが、すでに様々な理由で「人が住まなくなった集落」、すなわち「無居住化集落（廃村）」が全国に数多く点在している。その多くは、国や地方公共団体によって積極的に集落再編成事業が行われた 1969 年から 1976 年までに生じたものであった。人口減少時代を迎え、無居住化集落は今後増加していくことが予想される。

離村関連記念碑、すなわち、集落が存在したことを示す記念碑には、①集落の歴史を後世に伝えること、②転出した旧住民の心のよりどころになること、以上 2 点の意義があると筆者らは考えている。しかし、これまで系統立てた掘り下げ、分析は行われていなかった。

本稿では、離村関連記念碑の実際について掘り下げ、17 点の調査項目の中から、①耕作の有無、②電線の有無、③集落跡までの道路の舗装状況、④家屋の状況に着目し、傾向の分析を行った。また、無居住化集落の学校・分校記念碑についても少し触れる。

2. 調査の概要

調査は、2015 年 9 月 20 日から 11 月 3 日までの 12 日間、筆者ら（2 名）で行った。

調査対象は、先行研究がある秋田県全域の 62 集落とした。先行する佐藤の調査記録^[1]の 125 集落の中から、①最盛期の戸数が 5 戸以上、②ダム建設を主因として無居住化した集落ではない、③営林事業のために形成された集落ではない、以上 3 つの条件を満たした 62 集落を抽出した。細かな場所については、新旧地形図を使用して一つひとつ確認した。

なお、佐藤の調査記録は 1949 年から 1994 年までの 46 年間に生じた農山村の無居住化集落を取り上げているため、近年に生じた無居住化集落は取り上げていない。また、戦後開拓集落、鉱山関係の集落も取り上げていない。

集落の中心部およびその周辺の土地利用や建物などについて、目視で 17 点の項目を確認した。1 集落当たりの調査時間は約 45 分間であった。

3. 結果

表 1 は、調査の結果（離村関連記念碑の実際）をまとめたものである。

離村関連記念碑が見られたのは、調査対象 62 集落中 15 集落であった（24%）。佐藤の調査記録に記された 13 集落に加え、新たに 2 集落で離村記念碑を確認した。

*Team HEYANEKO

**東京大学大学院農学生命科学研究科 Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo

キーワード：無居住化 廃村 記念碑

表1 秋田県・無居住化集落（廃村）の離村関連記念碑の実際

Table 1 Monuments on Past Leaving at Uninhabited Villages in Akita

集落名	碑面の主題	移転年	建立年	建立者	移転から 建立まで
・合地前田	「合地前田道路由来碑」	1976年	1991年	個人	15年
・東又	「東又集落之跡」	1973年	1982年	鷹巣町	9年
・上大沢	「上大沢集落之跡」	1972年	1982年	鷹巣町	10年
・小摩当	「小摩当集落之跡」	1972年	1982年	鷹巣町	10年
・門ヶ沢	「門ヶ沢集落之跡」	1973年	1982年	鷹巣町	9年
・大内沢	「圃場整備事業完成記念碑」	1971年	1982年	集落一同	9年
・高畑	「高畑移転記念」	1971年	1971年	集落一同	0年
・露熊	「露熊離村記念碑」	1970年	1991年	有志	21年
・萩形	「離村記念碑」	1970年	1969年	秋田県知事	-1年
・折渡	「折渡部落跡」	1974年	1989年	上小阿仁村	15年
・屋布	「集落移転記念碑」	1975年	1984年	上小阿仁村	9年
・金山	「移転記念碑」	1973年	1979年	個人	6年
・古種沢	「古種沢部落移転記念」	1971年	1971年	集落一同	0年
・湯田	「この湖底に湯田ありき」	1975年	1999年	六郷史談会	24年
・蟻坂	「蟻坂在住没者供養塔」	1985年	2005年	集落一同	20年

●移転年は、1980年代の1集落を除いてすべて1970年代であった。●建立年は、①1979年以前：4、②1980年代：7（最も多い）、③1990年代：3、④2000年以降：1、●建立者は、①自治体：7（最も多い）、②集落一同：4、③個人：2、④有志・その他：2、●移転から建立までの年は、①-1～0年：3、②1～10年：7（最も多い）、③11～20年：3、④21年以上：2であった。

離村記念碑がある集落の割合は、●①耕作あり38集落中8集落（21%）、②耕作発見できず24集落中7集落（29%、高い）、●①電線あり32集落中6集落（19%）、②電線発見できず30集落中9集落（30%、高い）、●①集落跡まで舗装18集落中1集落（6%）、②ダート区間あり44集落中14集落（31%、かなり高い）、●①建物あり（大破除外）47集落中9集落（19%）、②建物（大破除外）発見できず15集落中6集落（40%、高い）であった。なお、62集落中14集落には、かつて分校があったが、分校記念碑があったのは、離村記念碑もあった2集落（萩形、折渡）だけであった。

4. 考察

離村記念碑は、①耕作発見できず、②電線発見できず、③ダート区間あり、④家屋発見できず、という集落、つまり、生活基盤が乏しい集落に多い、という傾向が見られた。

この調査において、筆者らは、離村記念碑がなければその存在の確認が難しい集落跡をいくつか見てきた。つまり、碑は集落の存在を後世に伝えるにあたって、重要な役割を果たしているといつてよい。離村関連記念碑（学校・分校記念碑を含む）の実際が広く知られることで、より多くの無居住化集落でその整備が進むことを願ってやまない。

謝辞

本研究は、平成27年度国土政策関係研究支援事業「将来的な再居住化の可能性を残した無居住化に関する基礎的研究：農村再生に向けて」の助成を受けたものである。

参考文献

[1] 佐藤晃之輔（1997）：「秋田・消えた村の記録」，無明舎出版